

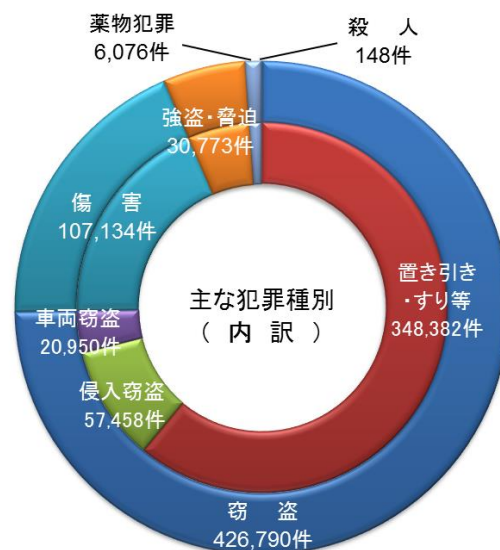
1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪発生状況

スペイン内務省の犯罪発生件数報告（暫定版）によれば、スペイン国内での総犯罪発生件数（1月～6月分）は993,596件と、前年に比べ2.5%の減少となっているものの、依然として高い水準で推移している。また、殺人及び侵入窃盗は増加している。犯罪種別の内訳は以下のとおり。

※（ ）内は前年比

殺人：148件(+18.4%)、強盗・脅迫：30,773件(-2.5%)、傷害：107,134件(-2.3%)、窃盗(置き引き・すり等)：348,382件(-0.8%)、窃盗(侵入窃盗)：57,458件(+2.2%)、窃盗(車両窃盗)：20,950件(-0.6%)、薬物犯罪：6,076件(-0.4%)



(2) 邦人被害発生状況

当館及びバルセロナ総領事館が認知したスペイン国内での今期邦人犯罪被害件数は80件で、前年同期118件から大幅に減少(-32.2%)した。

被害内訳は、引き続き、スリ(13件)及び置き引き(16件)が大部分を占めている。凶悪犯罪は減少傾向にあるものの、深刻な失業問題等を背景に犯罪が増加・凶悪化する可能性があり、注視が必要である。

(3) 邦人被害事案

- ・4月下旬の午後4時頃、セビリア市内の路上を女性在留邦人が徒歩移動中、自転車ですれ違った男から突き飛ばされた後、ナイフを振り回され、鞆を強奪された。
- ・6月中旬、リスボン発マドリード行きの寝台列車で、旅行者が食堂車で飲食中、施錠をした個室部屋に置いておいた現金を盗まれた。
- ・マドリード市内ホテルで、フロントでの手続き中又はロビーでのガイドによる説明中、鞆を置き引きされる事案が3件発生した。
- ・レストラン等で飲食中、足下、座席の背もたれ或いは側の空いた座席に置いた鞆を置き引きされた。(多数)
- ・交通機関での移動中、買い物中或いは歩行中、気付かない間に鞆から旅券・財布等を抜き取られた。(多数)

※その他の邦人被害例については、当館 HP「安全対策—過去1ヶ月間の主要な邦人被害例」参照。

2 テロ・爆弾事件発生状況

2013年10月、ガリシア州で発生した爆弾事件(過激派組織「ガリシア抵抗グループ」、死傷者なし)以降、事件の発生は認知されていない。

スペイン内務省は、2015年6月、フランス、チュニジア及びクウェートにおけるテロ発生を受け、スペイン国内においても類似的なテロ行為が発生する可能性は排除されないと、テロ警戒のレベルを「3(中程度)」から「4(高い脅威)」(全5段階)に引き上げ、本年7月14日にニースで発生したテロ事件後も、同警戒レベルを維持しており、スペイン治安当局によるテロ警戒及び治安強化が継続されている。

「イスラム国」やそのテロ行為をネット上で賞賛していた者、「イスラム国」参加の勧誘活動を行っていた者、ジハードイストを紛争地域に送り込んでいた疑いの者、「イスラム国」へ参加する目的で渡航準備していた者等が国内で逮捕されるとともに、「イスラム国」と関係があると推定される隠し武器庫も摘発されている。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

当館及びバルセロナ総領事館として、邦人被害の事件は認知していない。

4 日本企業の安全に関する諸問題

当館及びバルセロナ総領事館として、認知していない。